

A01班 **イスラーム信賴学**
イスラーム経済のモビリティと普遍性
研究会（2025年2月19日）
合評会

三浦 徹

お茶の水女子大学名誉教授

（公財）東洋文庫研究員

1. 比較史研究会（比較史のアジア）から「信頼学：モビリティ」へ

- 「原理的比較の試み」（『比較史のアジア』の序）
- 三角形の比較 → ヨーロッパ v s アジアという二分法を回避
- → 異同（相違点と共通性）の理由の考察（原理的比較）
- 制度・現象（Y）の原因となる、ファクター・アクター（X）の抽出
- 比較表の作成 → **発見の道具** → **地域を固定せず、問題に応じた設定**（板垣雄三 n地域）
- **ファクターの組合せによる、制度や社会の違い**（成り立ち）までは議論できていない。

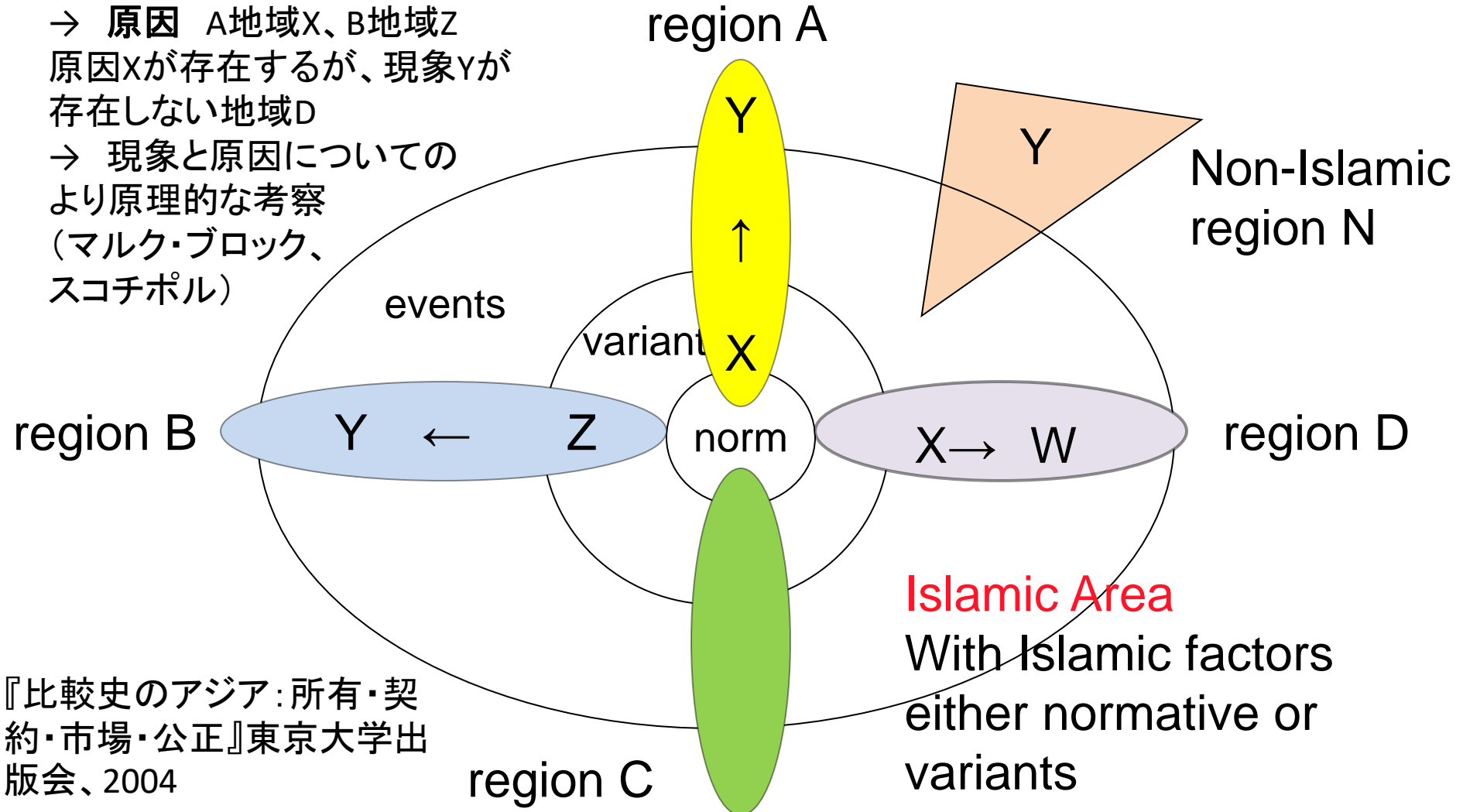
イスラーム地域の比較研究

現象Yが存在する地域の比較

→ 原因 A地域X、B地域Z

原因Xが存在するが、現象Yが存在しない地域D

→ 現象と原因について
より原理的な考察
(マルク・ブロック、
スコチポル)



『比較史のアジア: 所有・契約・市場・公正』東京大学出版会、2004

寄進の地域間比較

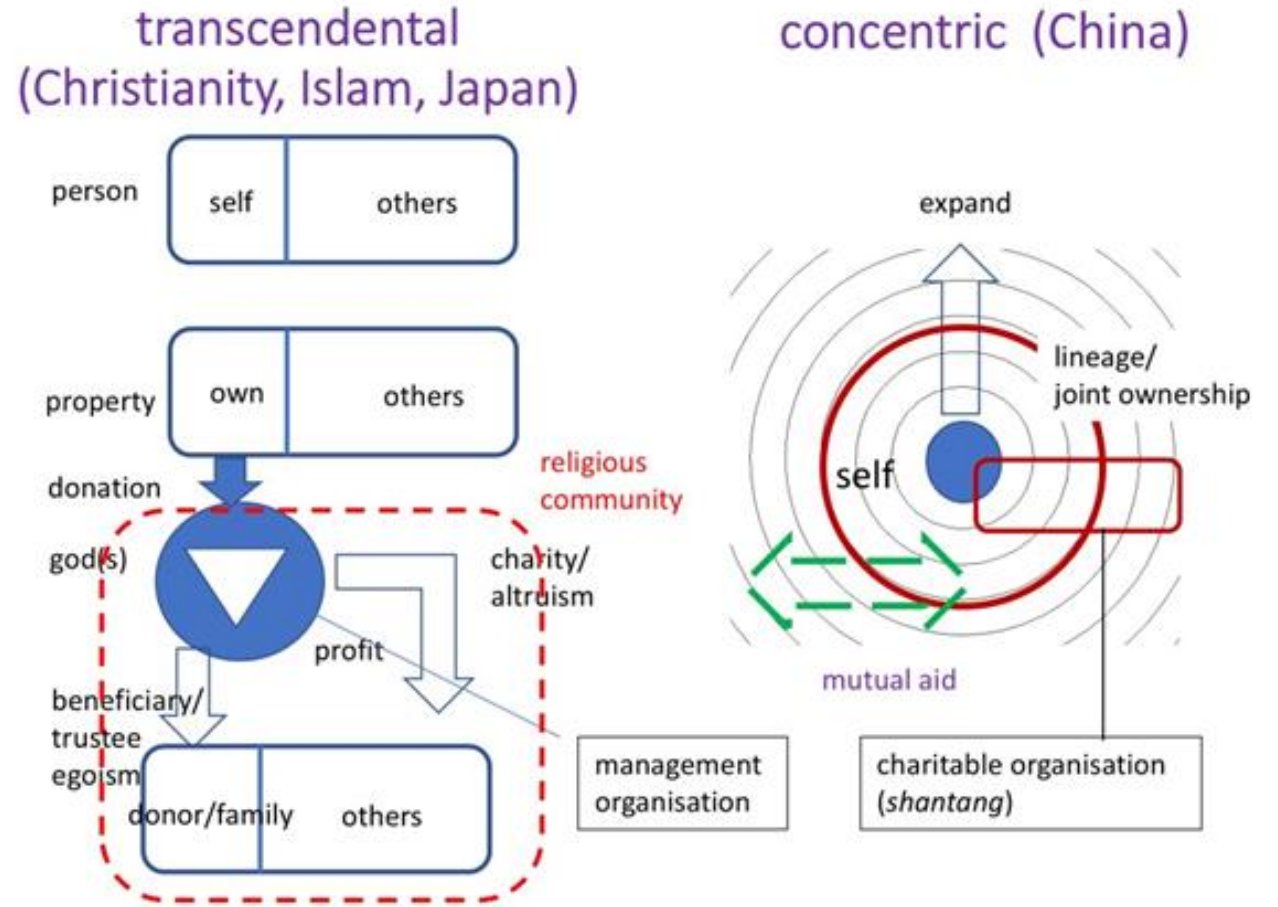
	ヨーロッパ	中東・イスラーム	中国	日本
用語	<i>fundare/fundatio</i> <i>/foundation/</i> endowment mortmain	ワクフ、ハブス	義荘、族田 宗廟・祠堂 善堂 捐	寄進 荘園
宗教・法 (正当化)	キリスト教 寛厚 慈善	イスラーム 善行 イスラーム法/法廷	儒教、道教、仏教	仏教、神道
目的 (受益対象)	教会、修道院、病院、礼拝所 救貧	宗教施設 救貧 家族	宗教施設 (仏教、道教、儒教) 宗族(リニージ) 救貧	寺社 上位者
寄進財	不動産 現金	不動産(用益権)、動産 現金	不動産 現物 現金	土地(得分、税収)
財産法 相続	排他的所有権 長子相続、分割相続	個人所有 所有権と用益権 均分相続	重層的所有権(王土、田面田 底、管業) 家産/均分相続	仏物・僧物・人物 長子(家長)相続
特徴	メモリア(祈祷)	個人主義	同心円状(宗族から地域へ)	互酬(保護)関係

三浦徹「宗教寄進の戦略：ワクフの比較研究」『岩波講座世界歴史9ヨーロッパと西アジアの変容』(岩波書店、2022)参照

1.2 ワクフ・寄進の地域間比較
 国際共同研究(2013-17、18-22) 国際シンポジウム(2015)、総括研究集会(2022)、英文論叢出版(東洋文庫TBRLシリーズ、2018、2024)

個と財と寄進/慈善のあり方の模式図 (TBRL24、P190)

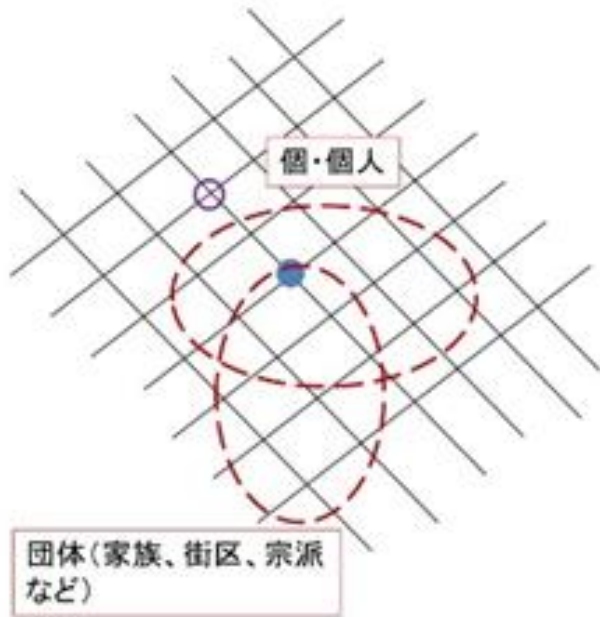
個と自他を峻別し、それを超越する神(一神教世界)、と、同心円的な個(中国)



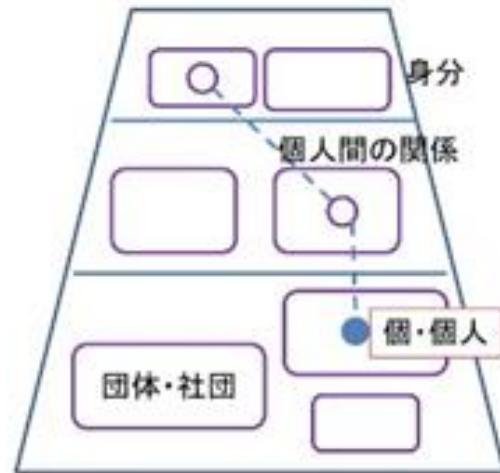
個と社会の類型（モデル/模式）

図4 個と社会の類型

B 契約型=ネットワーク型



A 団体(構造)型=ブロック型



C 差序(人倫)型=ウェブ型



1.3 契約・訴訟の地域間比較 東洋文庫2023年国際シンポジウム 英文論集(TBRL)を編集中
日本社会の形??

1.4 信頼学シリーズ (本書) 目次立ての違い

比較史のアジア：所有・契約・市場・公正

→信頼学 貨幣・所有・市場

論題 (キーワード) のちがい：

貨幣の加入 貨幣がモビリティを体現する媒体と考えたのか。貨幣を必ずしも媒介としない経済 (農牧) の比重が少なくなっている。

契約と公正の消滅 公正をモラルに置き換えたのか？ モラルは個人のものか、集合的・集団共有のものか、双方か

論題をつなぐキーワード/横串 (特性、メタファー) を設定

メタファー： 社会実態、文化、分析方法 (by Lapidus)

本書の分析概念

長岡 信頼学2024年度全体集会 レジюме(2025/0108)

- コネクティビティ: 他地域・他時代の制度をどんどん取り込む
- フレキシビリティ: るつぼのように一貫したシステムに仕立て上げる!
- ユニバーサリティ: 普遍的応用可能性がある!
- 比較史研究会 「イスラームと認識している要素をより普遍的な定義のものに置き換える」 P19
- 「モビリティという共通の座標軸を設定することで、・・・各経済制度のコネクティビティとフレキシビリティのパターンを分類して、共通性や独自性を解明する素材を見出そうとするのが本書のアプローチである・・・パターンの分析過程で、新たな座標軸——メタ座標軸、サブ座標軸——を見出していく」 P15

分析概念の一覧表

章・執筆・論題	コネクティビティ	フレキシビリティ	モビリティ	ユニバーサリティ
0長岡:C,F、M、U	他の制度とのつながりのなかでつくられる制度の動態	正当化するロジックを与えられた上で制度が実用化、展開	コネクティビティを融通無碍に吸収・融合(フレキシビリティ)するようなダイナミズム	信仰に関係なく誰もが使える制度として「普遍化」(脱宗教化)
1亀谷:貨幣の流通・信用		秤量貨幣&計数貨幣の併用?	ビザンティン、ササン朝、イタリアの貨幣を、取り入れたこと?	その使用可能性が高まることで信用された
2平野:頼母子講			頼母子講のモビリティは、相互扶助の倫理と資本主義の精神(資本づくり)を重ねる仕組みP68	相互扶助の倫理と仕組み? 誰か一人だけが損・得しない金融? P69
3長岡:イスラーム金融			イスラーム金融は西洋型金融および資本主義のキャッチアップを極限まで追求することで、逆接的に、イスラーム金融のアイデンティティ(分権性+追跡可能性)を取り戻した	
4荒井:実体経済		労働と利得のシステム		労働と利得、の経済システム?
5五十嵐:ワクフ			宗教的な寄進制度であったワクフ制度を当該社会の経済活動に適合させ、経済制度として活用した	
6岩崎:低組織化			平準化・レジリエンスの帰結としての低組織化?	
7町北:関係的取引 信頼と連結性			信頼と連結性が、関係的取引のモビリティを左右する要因?	
8小茄子川:インダス文明、市場とモラル、BU	初期都市?	フェティッシュに付着するモラル?	質的等価交換原理と量的等価原理、前者にある平準化・平等原理によるBU的結合?	
9安田:モラル・コミュニケーション、ツーリズム			モラル・コミュニケーションに基づく市場のコネクティビティこそが、イスラミック・ツーリズム市場のガバナンス、すなわち強靱性と柔軟性を高め、新たな公共性を涵養	
10長岡:現代ワクフ、利己と利他	無数に散らばる利己的な個人の行動を、同じく無数に散らばる利他の対象となぐ..?			利己を徹底した脱宗教の地平において、ムスリムだけでなく利己にまみれた万人に対しても開かれる普遍的可能性。 利己を許容し、それを利他の実現に向けて飼い馴らすような構想=モラル・エコノミー

① C/F/Uを具現する制度・事象

ムダーラバ、フィンテック、貨幣(の流通)、頼母子講、イスラーム金融、労働、ワクフ、バーザール(アパレルの製造者と卸売商人)、関係的取引(非スポット、非契約)、インダス文明(初期都市)、イスラミック・ツーリズム、現代(グローバル)ワクフ

② 落ちている・議論が必要な論点・対象

理念、法(環境)、(イスラーム以外の)宗教、公正(個人の、集合の)

(経済・社会の)アクター 個(人)が前面にでて、集団(同族、地縁、職業、企業..)が後景に退く

扱われていない地域: 中国(皇帝/国家のもとで、個、家族家産、市場社会が鼎立)、日本(個とイエ、所有と契約、市場と互酬が両義的?) をどう捉えるか?
()内は、三浦の理解

総括討論

執筆者との議論によって、俎上にのぼった制度・事象・概念の理解を深めたうえで、総括討論において、さらなる、メタ・サブ座標軸の発見を模索したい。

III. 論文（章）ごとのコメント

- 長岡総論

ムダーラバから株式会社までのプロセスを一望するならば、それは「イスラーム化」なのではなく、逆に、信仰理念の価値体系の中で実用化が担保されていた制度が、信仰に関係なく誰もが使える制度として「普遍化」（もしくは脱宗教化）したもの・・・こうしたイスラーム経済の特性を、イスラーム経済のユニバーサリティと呼ぶ」

Q1 イスラームを、中国に置き換えても、文が成立するか？ だとすればそれがユニバーサリティなのか。

- **Q2** 「グローバル資本主義のオルタナティブ」をみつけることは、本書全体の課題(目的)でもあるのか？

-

第I部 貨幣のコネクティビティ

1 章 なにが新たな貨幣を生み出すのか: 中世イスラーム世界における貨幣とその変容 亀谷 学

Q3 金貨、銀貨、銅貨には、用途(の違い)があり、それによって、通貨として流通する要因も異なっていたのではないか?

Q4 秤量貨幣と計数貨幣の併用は、他の地域(ヨーロッパや中国)においても、行われていたのか? それとも、複数の国家(王朝)が並立し、国際交易が基軸となっているイスラーム世界において、顕著にみられる現象なのか?

2章 貨幣を合わせて贈与する: 沖縄とカメルーンにおける頼母子講のモビリティ 平野(野元) 美佐

Q5 比較史のアジア(原理的比較)の構図に当てはめるならば、頼母子講の仕組み(Y=模合、トンチン)を生成する、相互扶助の倫理(X)が、両方の社会に共通する。Y(頼母子講)が存在しても、Xが存在しない社会はないと思うが(うまく機能しないので)、X(相互扶助の倫理)が存在しても、Y(頼母子講)が存在せず、他の形態をとる場合があるでしょうか?

3章 イスラーム金融はいかに資本主義と対峙してきたのか 長岡 慎介

Q6 株や証券の配当は、利子ではないので、イスラーム法学上の問題とはならない(抵触しない)のか?

第II部 所有と市場のパラドクス

4章 前近代イスラーム社会思想にみる経済生活;イブン・ハルドゥーン『歴史序説』における経済モデルと歴史 荒井 悠太

Q7 労働と利得、の経済システムは(加藤博さんの「歴史序説」論もここに着目している)、イスラームの理念・文化と、関係するのか、それとも関係しないのか?

5章 新たな経済が生まれるとき: 中世エジプトのワクフ経済 五十嵐 大介

Q8 多数のワクフ財からの収支の管理(実際の経営)はどうやっていたのか? ビザンティン、イランや中央アジアでは、寄進者は、もっぱら管財人として利益をえたという。なお、日本の寄進(荘園)も、家族(イエ)の利益の確保が目的であった(寄進科研最終研究会、およびTBRL24)。

Q9 ムハンマドがウマルに、ワクフからの収益を、自分の(一族の)ためにも使ってよい、と述べているように、ワクフ制度は、当初から、利他(慈善)の目的をかかげつつ、利己的要素ももっていた。

用益権の授受(賃貸・売買)による運営は、ワクフ以外の不動産の場合も同様、つまり、ワクフだけがモビリティをもつのではない。他方で、イスラーム法の相続は、分割相続を原則とするため、財が分散する、それを防ぐことができるのが、ワクフの効用か。

6章 「低組織化」システムと市場：現代イランが見るもうひとつの解 岩崎 葉子

Q10 イランのバーザール(産業)のなかでも、組織化されている製品・分野はないのか？

Q11 $X = \text{利益の平準化と経営体のレジリエンス(持続)}$ \rightarrow $Y = \text{産業/市場の低組織化}$ 、という結論(解)であり、それは他地域にみられる常態(普遍的)と述べる。では、イランのバーザールの低組織化状態は、(シリアのバーザールも平準で低組織化にみえるが)、イスラームに関係する面があるのか？

第III部 市場とモラルの相克とハーモニー

7章 関係的取引の比較制度分析:信頼と廉潔性の視点から 町北 朋洋

Q11 「関係的取引」とは、スポット的ではなく(ある程度の特定性をもつ)、かつ契約にもとづく(固定的)取引とも違うもの、とみられるが、東南アジア研究でいう(原洋之介さんや関本照夫さんが用いる)「二者間関係」(ネットワーク)の類いと考えてよいのか(かつての比較史研究会でお二人からこの議論をうかがった)。

Q12 関係論的取引の、システム全体としての、統合は、(どのように)なされるのか？

8章 国家なきインダス文明社会における「市場」とモラル、およびそのスケールについて 小茄子川 歩

Q13 質的等価原理とは、貨幣に媒介されない物々交換のことだけではなく、「質的等価交換にもとづく「貨幣」は人類史においてほとんど普遍的にみられる」(P204, グレーバー2016より)というが、どういう貨幣か？ それとも、貨幣そのものの問題ではなく、当該社会/地域のシステムによるのか。

Q14 モノに固着した、フェティッシュ(物神)のなかにある「小さなモラル」とは、具体的にはなにを指しているのでしょうか。「小さなモラル」が、(インダス文明の地域間交流ネットワークでそうであったように)、資本主義における貨幣にかわる、モビリティとなるべき(なりうる)、という考えでしょうか。長岡さんの示す現代の「イスラーム金融(ワクフも含む)」は、貨幣(暗号通貨を含む)に依拠していて、小茄子川さんの所論と、逆の方向の議論にもみえるのですが、どうでしょうか？

9章 市場が開示するモラル・コミュニケーション:イスラミック・ツーリズムにおけるコネクティブティ 安田 慎

Q15 イスラミック・ツーリズムのガバナンスは、イジャラ(契約)であり、ゆえにボトムアップと考えるか？

Q16 イスラミック・ツーリズムのモラルは、宗教上のモラルであり、(インダスの)小さなモラルとは別物か？

10章 イスラーム経済とポスト資本主義:現代ワクフの再生が作り出す新しいモラル・エコノミー 長岡 慎介

Q18 利他的であることを二次的と考える人(投資家)にとっては、ワクフであるかどうかは問題ではなく、利潤(利益率)だけが関心事か。だとすれば、ワクフ提供国の経済成長が鈍化(利益率が減少)すれば、離れていくのではないか？

Q19 利己と利他を前提とし、ワクフが利己的&利他的な機能をもつシステムという説明を私自身もしています(三浦「宗教寄進の戦略」)。『「利他」の生物学』は生物に見られる利他的な行動を、金澤周作『チャリティの帝国』(2022)は利他的な心性を人間が備えていることを前提にしています。

他方で、中島岳志ほか『「利他」とは何か』(2021、4ヶ月で6刷)では、利己・利他の二分論を批判し、利他は、自と他がひとつになるところ(「うつわ」)に、「オートマテック」に現れるもの、だと論述します(平岡聡『理想的な利他:仏教から考える』2023も同様の観点です)。この所論について、長岡さんはどう考えますか？ 私は共感するところがあり、「自他の二者が二者のまま「不二」になる」(P116、若松栄輔)というフレーズは、イスラームについての板垣雄三氏のタウヒード(「多即一、多元主義的普遍主義」、板垣2023)を想起します。

参考文献

比較史のアジア(2004)以降の関連著作(三浦徹)

1. 「架橋する法:イスラーム法が生まれるとき」、林信夫・新田一郎編『法が生まれるとき』創文社、2008.
2. 「比較アーカイブス学の可能性」国文学研究資料館アーカイブズ研究系編『中近世アーカイブズの多国間比較』岩田書院, 2009年3月, pp. 423-424.
3. *Dynamism in the Urban Society of Damascus: The Ṣālihiyya Quarter from the Twelfth to the Twentieth Centuries*, Leiden: Brill, 2015, p. 347.
4. 「海を渡った皮紙(ヴェラム)文書:モロッコの契約文書コレクション」東洋文庫編『アジア学の宝庫, 東洋文庫—東洋学の方法と歴史』, 2015年3月, pp.285-301.
5. “A Comparative Study of Contract Documents: Ottoman Syria, Qajar Iran, Central Asia, Qing China and Tokugawa Japan”, *Legal Documents as Sources for the History of Muslim Societies: Studies in Honour of Rudolph Peters*, ed. by Maaïke van Berkel, Léon Buskens & Petra M. Sijpesteijn, Leiden: Brill, 2017, pp. 266-291.
6. ed., *Comparative Study of the Waqf from the East: Dynamism of Norm and Practices in Religious and Familial Donations* (Toyo Bunko Research Library 19), Tokyo: Toyo Bunko, 2018/3, p. 278. (“Transregional Comparison of the Waqf in Pre-modern Times: Japan, China, and Syria”, pp. 263-274を執筆).
7. 「中東・イスラーム研究から何を学ぶか:特集に寄せて」『お茶の水史学』第62号, 2019年3月, pp. 265-275.
8. . ed. *Comparative Study of Donation Strategies*. Toyo Bunko Research Library 24. Tokyo: Toyo Bunko, 2024 xii+198p. (Chapter 11 “Regional Comparison of Donation Strategies in Europe, the Byzantine Empire, Islamic Regions, China and Japan: Collaboration of the Japanese Research Group”, pp. 177-198を執筆)
9. 「宗教寄進のストラテジー」『岩波講座世界歴史9ヨーロッパと西アジアの変容11～15世紀』岩波書店, 2022年8月, pp. 203-220.
10. 「都市社会の連続性:西アジアの古代とイスラームそして中世のイタリアと日本の比較」『都市史研究』第9号, 2022年10月, pp. 87-98.
- 11 “Strategy for Religious Endowment: A Comparative Study of the Waqf”, *Endowment Studies* 7-1, 2023, pp. 5-21.
12. 「文書研究 総論」柳橋博之監修『イスラーム法研究入門』成文堂, 2025.

板垣雄三氏の「n地域」や「超近代性(西洋も歯が立たため中東社会の元祖的「近代性」)」論

「<超近代性Super-modernity>研究の歩みとその課題探究の現局面」『土着的近代研究:二項対立・欧米型近代を超えて』創刊号、2023/04)